

環境経営レポート

2025年度版 (2025年4月～2026年3月)



タズミ

拝啓 ゴミさま

私たちに、便利で豊かな
生活を与えてくれて
ありがとうございました。

ゴミ



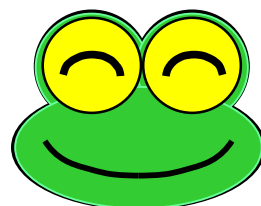
返信

私達は、まだまだ
役に立ちたいです！



株式会社タズミ

Tazumi



ごみが活きかえる!!

発行年月日 2026年 5月 11日

環境経営方針

環境理念

タズミは「不要になったものを、可能な限り有効活用する」という精神で

サーキュラーエコノミーとカーボンニュートラルを推進し、持続可能な社会形成に貢献して参ります。

行動指針

タズミの従業員は、事業活動の環境効果を良く理解し
自ら主体的に取り組み皆と協力して、環境負荷低減を推進します。

1. 廃棄物の収集運搬、中間処理をはじめとする、各種サービスの提供を通して、廃棄物の削減、再利用、再資源化、省エネルギー活動及び節水等を推進します。
2. 二酸化炭素の排出抑制効果の高い廃棄物の燃料化事業を推進します。
又、この事業の意義や効果について、従業員・事業者・市民への周知啓蒙活動に努めます。
3. 環境に関連する法令・規制を遵守し、継続的に汚染の予防に努めます。
4. SDG s が目指す持続可能な将来の為に、目標を立て計画をして、事業を通して実現していきます。
5. 外的要因、内的要因による課題を十分に検証し、事業のチャンスとなるように目標を立て計画し改善に取り組みます。
6. 環境管理活動の目的・目標及び施策を活動計画の中で明らかにし、全従業員がそれぞれの役割に応じて、創意をもって環境管理活動を推進します。
7. 代表者による取組状況の評価と全体的な見直しの実施により、活動状況を確認し、改善及び是正を行い、施策を推進するとともに、環境マネジメントシステムの維持、並びに継続的改善に努めます。
8. 従業員に対する環境教育を計画的に実施し、環境保全に対する意識の向上に努めると共に、従業員一人ひとりが良き企業市民として行動します。
9. 環境経営方針は、すべての従業員に周知するとともに、環境活動レポートやホームページを通じて、社外にも公開します。

2024年 5月 1日

神奈川県綾瀬市吉岡709

株式会社 タズミ

代表取締役 田墨幸一郎

目次	頁
1. 会社概要	1-7
2. 事業実績の推移	8
3. 環境経営目標	
3.1 中期環境経営目標（3ヵ年）	9
3.2 中期環境経営目標に基づく、2025年度活動計画	10-12
3.3 小集団活動(Bottom Up型)を取り入れた改善活動実績	13
4. 「プラタンの森計画」実績報告	14
5. 環境関連法規等の遵守状況及び、評価結果	15
6. 環境測定結果	16
7. 2025年度 of 取組結果とその評価、及び前回代表者による全体評価と見直し結果	17
8. 代表者による全体評価と見直しの結果	18
9. 中期環境経営活動目標	19
2026年度環境活動目標・計画	20
10. 各部門 活動実績資料	
10.1 教育訓練	21
10.2 緊急時の訓練	22-23
10.3 改善活動	24
11. その他 活動実績資料	
11.1 外部団体との取組み	25
11.2 廃棄物処理委託先の視察	
11.3 環境保全寄付	26-27

1. 会社概要

1) 事業所名及び代表者名

- ・株式会社タズミ
- ・代表取締役 田 墨 幸 一 郎
- ・法人設立年月日 1984（昭和59）年 8月 1日

2) 認証・登録範囲（事業所）（所在地）

- ・本社 吉岡リサイクルセンター 神奈川県綾瀬市吉岡 7 0 9
- ・早川RPF工場 神奈川県綾瀬市早川 2 6 4 7 - 3 5
- ・早川第 2 工場 神奈川県綾瀬市早川 2 6 4 7 - 3 2
- ・早川リサイクルセンター 神奈川県綾瀬市早川 2 2 7 5 - 1
- ・プラターン海老名工場 神奈川県海老名市上郷 4 - 2 - 8
- ・海老名第 2 工場 神奈川県海老名市上郷 4 丁目 2 7 1 0 - 1 4

3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

- ・責任者 常務取締役 田墨 啓治
- ・担当者 管理課 永瀬 優一
- ・連絡先 電話 0467-77-1847
FAX 0467-77-1936

4) 認証・登録対象活動

- ・「JIS マーク表示制度認証」（JIS Z 7311 RPF-A）
- ・「ISO9001認証」廃棄物由来の紙、プラスチックなど固形化燃料（RPF）プラターン製造
- ・産業廃棄物の収集及び運搬業務、処分業務(主に再資源化処理)
- ・一般廃棄物の収集及び運搬業務、処分業務(主に再生固形燃料化)
- ・資源リサイクル業（古紙・鉄くず・非鉄・アルミ・プラスチック・ガラス）

5) 事業の規模

- ・資本金 2,000万円
- ・事業規模を 表 1 に示す

表1 事業規模

活動規模	単位	2023年度	2024年度	2025年度
		2023.4～2024.3	2024.4～2025.3	2025.4～2026.3
売上高	百万円	1,373	1,493	1,716
従業員	人	60	58	65
敷地面積	m ²	7,999	7,999	7,999
工場床面積	m ²	4,233	4,233	4,233
収集運搬量	t	10,906	11,786	11,564
処理処分量	t	17,388	18,440	20,040

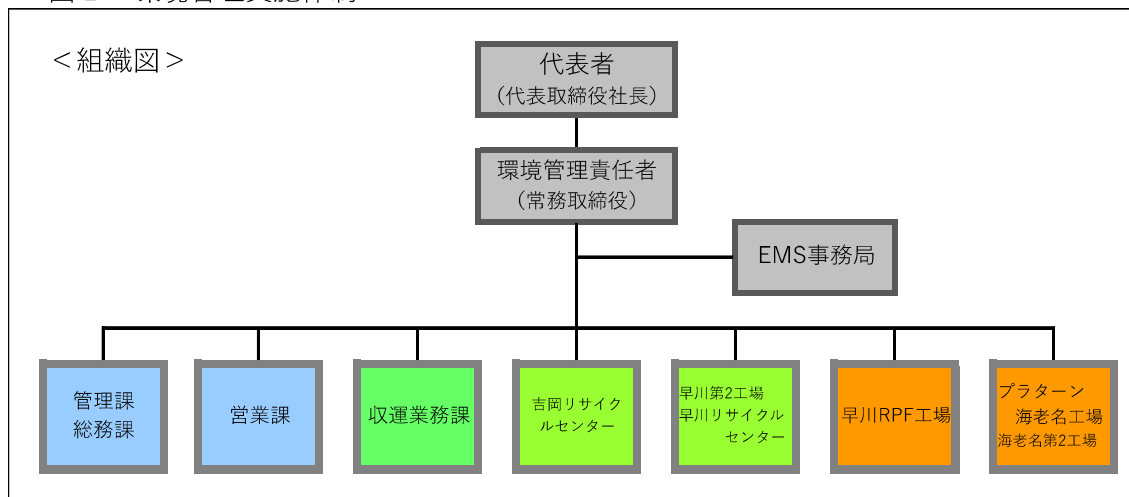
1. 会社概要

6) 組織図

組織図を図1に示す。

図1 環境管理実施体制

2026年5月1日現在



環境経営システムに関する責任・権限は表2に示す。

表2 環境経営システムに関する責任・権限

環境経営システムに関する責任・権限	
代表者 (社長)	(1) 環境管理責任者の任命 (2) 環境経営方針の策定 (3) 環境経営システム実施及び管理に必要な資源の準備 (4) 環境経営システムの定期的な見直しの実施 (5) 社内情報の外部公開可否決定
環境管理責任者 (常務)	(1) 環境経営システムの確立、実施及び維持するための処置 (2) 社長に対し、環境経営システムの実績報告 (3) 環境経営システムの教育・訓練の計画・実施の責任者 (4) 外部からの環境に関する苦情や要望の受付窓口
EMS事務局	(1) 環境管理責任者の補佐、EMS推進事務局 (2) 環境負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施 (3) 環境目標、環境活動計画書原案の作成 (4) 環境活動の実績集計、環境関連法規等取りまとめ表の作成 (5) 環境活動レポートの作成
各部門長	(1) 環境活動の計画・実施の部門責任者 (2) 改善活動の推進
一般従業員	(1) 環境活動計画に基づいた環境活動及び業務改善活動の推進 (2) 小集団活動を取入れた改善活動の推進

1. 会社概要

7) 廃棄物処分業に関する許可内容一覧

産業廃棄物処分業、一般廃棄物処分業許可内容は表3・4に示す。

2026年5月1日現在

表3 許可番号（廃棄物の種類）

■は優良産廃処理業者認定制度で優良認定を取得した自治体

許可内容		許可自治体	許可番号	許可更新年月 許可有効年月日		廃棄物の種類																	特別産業廃棄物 （ごみ） 一般廃棄物																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
						燃え殻	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	廃プラスチック類	紙くず	木くず	繊維くず	動植物性残さ	ゴムくず	金属くず	ガラスくず	鉱さい	がれき類	ばいじん	処分するために焼かすもの																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
処分業	産業廃棄物	神奈川県	01422023601	令和5年5月18日	吉岡									○	○	○	○	○	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	

表4 各事業所の許可内容

事業の区分	中間処理（破碎、機械選別、切断、減容固化、圧縮）
中間処理施設	早川RPF工場 神奈川県綾瀬市早川2647-35
	①破碎施設 処理能力 30.72 t/日（16 h）：15.36 t/日（16 h × 2基） ②減容固化施設 処理能力 32t/日（16 h）：16t/日（16h × 2基）
保管施設	合計保管面積/保管容量 417.7㎡/880.9㎡
中間処理施設	吉岡リサイクルセンター 神奈川県綾瀬市吉岡709番地
	③破碎施設 処理能力 3.9t/日（8 h）、木くずの場合4.9t/日（8 h） ④機械選別施設 処理能力 50t/日（10 h） ⑤切断施設 処理能力 30t/日（10 h）；10t/日（10 h）× 3基
保管施設	合計保管面積/保管容量 1038.0㎡/1202.6㎡
中間処理施設	プラターン海老名工場 神奈川県海老名市上郷4-2781-14
	⑥選別施設 処理能力 72t/日（16 h） ⑦破碎施設 処理能力 72t/日（24 h） ⑧減容固化施設 処理能力 72t/日（24 h）：36t/日（24 h）× 2基
保管施設	合計保管面積/保管容量 463.5㎡/1592.6㎡
中間処理施設	海老名第2工場 神奈川県海老名市上郷4-2710-14
	⑨機械選別施設 処理能力 48t/日（16 h） ⑩圧縮施設 処理能力 54t/日（16 h）
保管施設	合計保管面積/保管容量 182.0㎡/269.3㎡
中間処理施設	早川第2工場 神奈川県綾瀬市早川2647-32
	⑪機械選別施設 処理能力 138t/日（16 h） ⑫切断施設 処理能力 43t/日（16 h）
保管施設	合計保管面積/保管容量 227.3㎡/362.3㎡

表5 事業に供する重機・荷役車両

※フォークリフトのEV化を進める

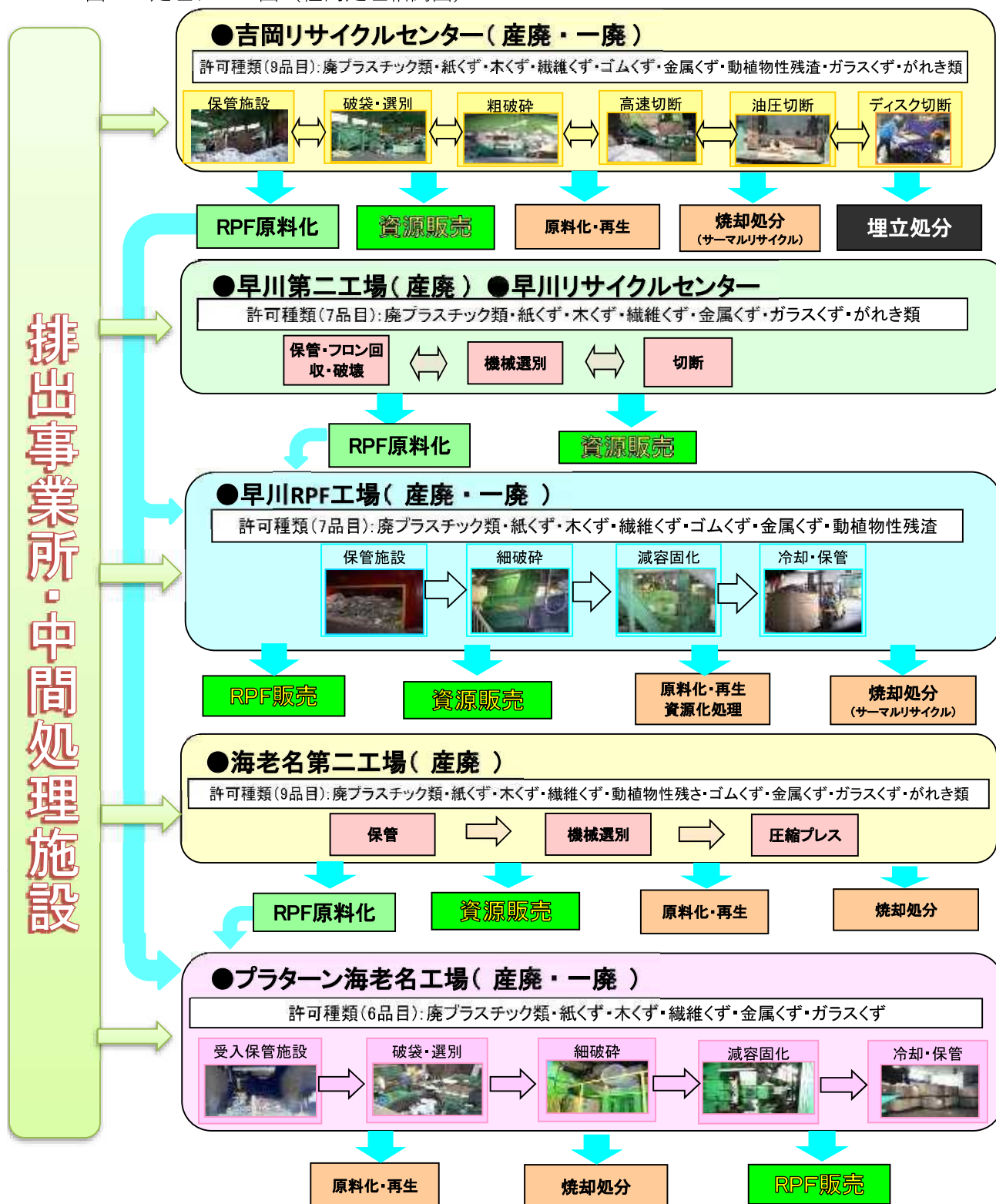
事業所名称	エンジンフォークリフト			バッテリーフォーク	エンボ	床清掃スライパー
	1トン	2トン	3トン			
早川RPF工場				1台		
吉岡リサイクルセンター			2台	2台	2台	1台
プラターン海老名工場				2台		
海老名第2工場				1台	1台	
早川第2工場			1台	2台（内ソニー1台）	1台	
早川リサイクルセンター	1台					



1. 会社概要

8) 処理フローを図2に示す。

図2 処理フロー図（社内処理相関図）



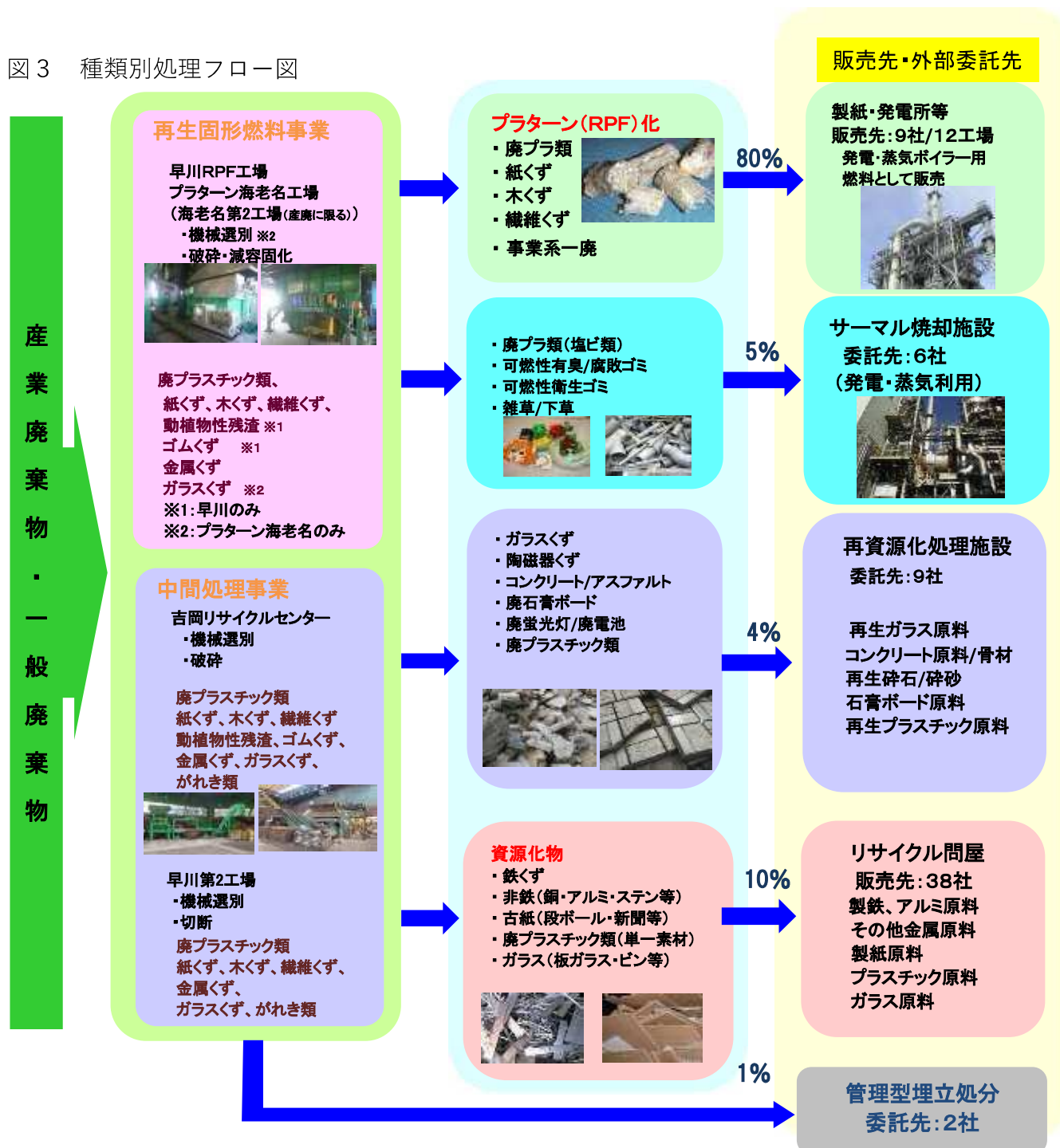
Tazumi

1. 会社概要

9) 種類別処理フローを図3に示す。

排出事業者から処理を受託した様々な廃棄物は、お客様の要望を踏まえ、再生資源化・燃料化を行っています。処理の出来ないものに関しては、環境負荷の少ない方法で外部委託処理を行っています。

図3 種類別処理フロー図



1. 会社概要

1 (廃棄物収集運搬業に関する許可内容一覧

産業廃棄物収集運搬業、一般廃棄物収集運搬業 の許可内容は表 6 に示す。

表 6 許可内容 (廃棄物の種類)

2026年5月1日現在

許可内容		許可自治体	許可番号	上：許可年月 下：許可有効年月日	廃棄物の種類																	特別産業廃棄物	一般廃棄物（ごみ）	
					燃え殻	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	廃プラスチック類	紙くず	木くず	繊維くず	動植物性残さ	ゴムくず	金属くず	ガラスくず	鉱さい	がれき類	ばいじん	処分するために処理するもの			
収集運搬業	産業廃棄物	茨城県	00801023601	令和6年1月19日		○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○		○					
				令和12年9月21日																				
		埼玉県	01100023601	令和4年5月30日		○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○		○					
				令和11年5月24日																				
		千葉県	01200023601	令和5年5月18日	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○		○						
				令和12年5月17日																				
		東京都	13-00-023601	令和4年7月7日	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○						
				令和11年7月6日																				
		神奈川県	01402023601	令和3年6月1日	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○						
				令和10年5月31日																				
	一般廃棄物	静岡県	02201023601	令和6年6月27日	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○							
				令和13年6月26日																				
		群馬県	01000023601	令和7年2月6日		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○						
				令和12年2月5日																				
		平塚市	指令第198号	令和8年5月1日																			○	
				令和10年4月30日																			○	
		藤沢市	許可第1号 86	令和8年4月1日																			○	
				令和10年3月31日																			○	
		厚木市	指令第59号	令和8年4月1日																			○	
				令和10年3月31日																			○	
		大和市	許可番号第202号	令和8年4月1日																			○	
				令和10年3月31日																			○	
		海老名市	指令第 環28号	令和8年4月1日																			○	
				令和10年3月31日																			○	
		座間市	指令ゼ第345-23号	令和8年4月1日																			○	
				令和10年3月31日																			○	
		綾瀬市	指令リ第12号	令和7年7月4日																			○	
				令和9年7月3日																			○	

・許可の事業範囲を表 7 - 1 に、運搬車両の種類及び台数を表 7 - 2 に示す。

表 7 - 1 事業範囲

事業の区分	収集運搬 (積替え・保管を除く)
	「積替え又は保管を行なう全ての所在地及び面積並びに当該場所ごとにそれぞれ積替え又は保管を行う。産業廃棄物の種類、積替えの為の保管上限及び積上げることができる高さ」は「なし」
廃棄物の種類	燃え殻、汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、動植物性残渣、ゴムくず、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類
許可の条件	なし

表 7 - 2 運搬車両

③車両の種類「○トン車」は積載重量ではありません。

2026年5月1日現在

車両の種類	トレーラー車	大型車	中型車	準中型	普通	軽車	合計
コンテナ脱着(ローダー)車		4台	4台	4台			34台
塵芥 (パッカー) 車			1台	6台			
平ボディ車		1台	2台	7台			
ダンプ車		1台					
バン					1台	2台	
トラクタ+セミトレーラ	1台						



1. 会社概要

1 1) 廃棄物収集運搬車両の環境性能

低排出ガス規制適合については表 8 に、低燃費車導入については表 9 に示す。

表 8 廃棄物収集運搬車に係る低排出ガス車の導入状況

収集運搬車の排ガスレベル	台数（比率） 2026年3月末時点		【参考】台数（比率） 2012年3月時点	
	台数	比率	台数	比率
全保有台数	33台	(100%)	19台	(100%)
①平成15年規制適合車	0台	(0%)	1台	(5%)
②平成17年規制適合車	1台	(3%)	4台	(21%)
③平成17年基準低排出ガス車50%低減 ☆☆☆	1台	(3%)	0台	(0%)
④平成17年基準低排出ガス車 ☆☆☆☆	0台	(0%)	0台	(0%)
⑤平成17年基準低排出ガス（PM10%低減）重量車 ☆	0台	(0%)	2台	(11%)
⑥平成17年基準低排出ガス（Nox及びPM10%低減）重量車 ★	0台	(0%)	1台	(5%)
⑦平成19年規制適合車	1台	(3%)	0台	(0%)
⑧平成22年（ポスト新長期）排出ガス車	4台	(12%)	0台	(0%)
⑨平成21年基準低排出ガス車10%低減☆☆☆	5台	(15%)	0台	(0%)
⑩平成22年基準低排出ガス車10%低減	9台	(27%)	0台	(0%)
⑪平成28年規制適合	12台	(36%)	0台	(0%)
低排出ガス車以外の車両	0台	(0%)	11台	(58%)

表 9 廃棄物収集運搬車に係る低燃費車の導入状況

収集運搬車の燃費低減レベル		台数（比率） 2026年3月末時点		【参考】台数（比率） 2012年3月時点	
全保有台数		台数	比率	台数	比率
平成27年度燃費基準達成車	① ー	0台	(0%)	1台	(5%)
	② ー	22台	(66.7%)	2台	(11%)
	③ 5%低減レベル	8台	(24.2%)	0台	(0%)
	④ 10%低減レベル	4台	(12.1%)	0台	(0%)
令和7年度燃費基準達成車	⑤ 95%達成車	1台	(3.0%)		
低燃費基準達成車以外の車両		0台	(0.0%)	16台	(84%)

当期コメント

当社の廃棄物運搬車両は、すべて排ガス規制適合および低燃費基準を達成した車両となりました。今年度は2台の車両入替を実施しました。特に入替を行った10tローダー車は、中型車と同等のサイズ感で取り回しが良く、より幅広いお客様のご要望にお応えできるようになりました。



① 10t ローダー車



② 4t ローダー車

2. 事業実績の推移

受託廃棄物の処理量と資源リサイクル量を表10に示す。

表10 受託廃棄物の処理量 及び資源リサイクル量（単位：t）

★今年度

廃棄物の種類			2023年度	2024年度	2025年度	
収集運搬量	一般廃棄物収集運搬量		1,241	1,068	996	
	産業廃棄物収集運搬量		9,624	10,157	9,936	
	収集運搬合計		10,866	11,225	10,932	
中間処理 処分量	一般廃棄物処分量	固形燃料化・選別	2,287	2,532	2,892	
	産業廃棄物処分量	機械選別・破碎 ・減容固化	15,056	15,888	17,040	
	処分量合計		17,343	18,420	19,932	
	再資源化	再生固形燃料出荷量	固形燃料化量	13,109	14,076	15,348
		古紙出荷量	機械選別/再資源化	72	80	64
		鉄・非鉄原料出荷量	機械選別/再資源化	1,783	1,916	2,189
		木チップ原料出荷量	機械選別/再資源化	0	0.0	0.0
		プラスチック出荷量	機械選別/再資源化	84	46	47
		再資源化合計		15,048	16,118	17,648
	処理 後 委託	中間処理後残渣	サーマル焼却処理	1,236	1,092	1,056
			破碎等リサイクル処理	552	648	744
			管理型埋立処分	204	216	252
資源リサ イクル量	古紙類（処理後再生分含む）		1,392	1,544	1,572	
	鉄原料（処理後再生分含む）		1,165	1,337	1,593	
	非鉄原料（処理後再生分含む）		806	832	943	
	ガラス原料（処理後再生分含む）		111	143	159	
	再生プラスチック原料（処理後再生分含む）		108	109	110	
	資源リサイクル量合計		3,582	3,964	4,377	
コメント	過去３年間の実績では収集運搬について2024年度に関連会社の収集運搬分の増加があった全体的には微減となっている。その中で廃棄物の再資源化に取り組んだ結果、RPFについては近隣自治体のバイオマス素材が増加したこと、産廃でも廃プラ、繊維くずの増加が順調に推移し目標達成が適いました。受託した廃棄物のリサイクル率も１％ずつではあるが８８％を超える結果となった。					

3. 中期環境経営活動目標（3ヵ年）※2023～2025年度

3.1 2025年度活動計画

以下に、活動項目を明示する。各部門は、年度計画表に目標を設定し、月次で推移を確認し
2025年度で達成度を評価する。詳細は表11に示す。

表11 環境活動計画取組表

★：各活動項目に対する主管部門

	活動項目	管理及び実施項目	推進部門
1	2022年度より、全社再資源化量を15%アップする <基準年：2022年度>	・選別作業の効率化の推進・資源化物の知識習得 ・効率的な解体作業・顧客への買上げ提案 ・部署間の協力 ・付着物や混合物、少量案件の取組み ・資源問屋に直送するデータの追加と検証	業務課（★） 早川第2（★） 営業 吉岡 早川・海老名
2	2025年度、RPF（再生固体燃料）を15,000トン/年 出荷する	・焼却向け廃棄物からの燃料化 ・効率的な選別作業の追求 ・品質規格に合った原料の管理 ・発熱量低下対応の廃プラ集荷の強化 ・新たな燃料品種の検討 ・顧客の要望を適える営業力強化 ・少量排出者に対する対応 ・SRF Projectで燃料化推進の継続的取組み	早川・海老名（★） 吉岡（★） 営業 業務課 早川第2
3	Scope1 化石燃料由来の地球温暖化ガスを2022年度より原単位（取扱量1トン当り）で3%削減する 目標値：27.0kg-CO ₂ /トン以下	・車輛毎の燃費の監視 ・確実な車輛点検・適切な対処 ・効率的な回収方法の検証 ・重機・フォークリフト作業の無駄の排除 ・バッテリーフォークリフトの導入推進 ・収集や出荷の運搬効率改善	業務課（★） 営業 吉岡 早川第2 早川・海老名
4	Scope2 電力由来の地球温暖化ガスを2022年度より原単位（取扱量1トン当り）で3%削減する 目標値：52.7 kg-CO ₂ /トン以下	・RPF製造時の電力使用量（デマンド）の監視 ・機械設備管理（消耗品交換等）の徹底 ・過負荷停止の削減 ・無駄な電気を使用しない節電（消灯・停止等） ・健康を留意した空調機器の温度設定 ・プロセスリターン削減 ・時間当りの生産能力の改善 維持	早川・海老名（★） 吉岡 早川第2 総務 管理
7	実質 CO ₂ 排出削減量の増大 RPF事業によるCO ₂ 排出削減量から、事業由来のCO ₂ 排出量を引いた削減量	・2項のRPFの出荷量を増加して、サプライチェーンでのCO₂排出量の削減 ・3項の化石由来の原単位当りのCO₂排出量の削減 ・4項の電力由来の原単位当りのCO₂排出量の削減	全部門

以下の4項目は、数値目標の設定をおこなわないが、環境影響度の高い事項として、各部門で監視項目とする。

1	自社廃棄物の管理	自社廃棄物の分別を徹底して、3.5kg/月平均を超えないように監視する	全部署
2	グリーン購入（環境負荷の少ない）を推進する	事務用品は、月次で購入金額を計上して、グリーン購入比率60%以上を維持する	全部署
3	上水使用量を監視する	上水使用量は、適切な機能を維持し無駄な使用が無いように監視し、異常があれば対処する	全部署
4	化学物質排出量を把握する	自社の事業において化学物質は使用していないが、購入塗料等に含まれるVOCの量を把握する	全部署

3.2 2025年度活動実績

1) 2025年度までに、全社再資源化量を15%アップする。

2025年度目標：2,401 t 再資源化物出荷（2022年度を基準に15%アップ）

実績：2,410 t 出荷（達成率100%）となり、**目標達成出来ました。**

図 4



早川第二工場の多大な尽力により、全体の目標を達成することができました。
一方で、部門ごとの計画対実績を見ると未達となった部門が多く、課題も残りました。
しかし、2025年度は出荷量の増加に向けて、再資源化物の社内運搬方法や仕分け業務の改善など、積極的な活動を実施しました。

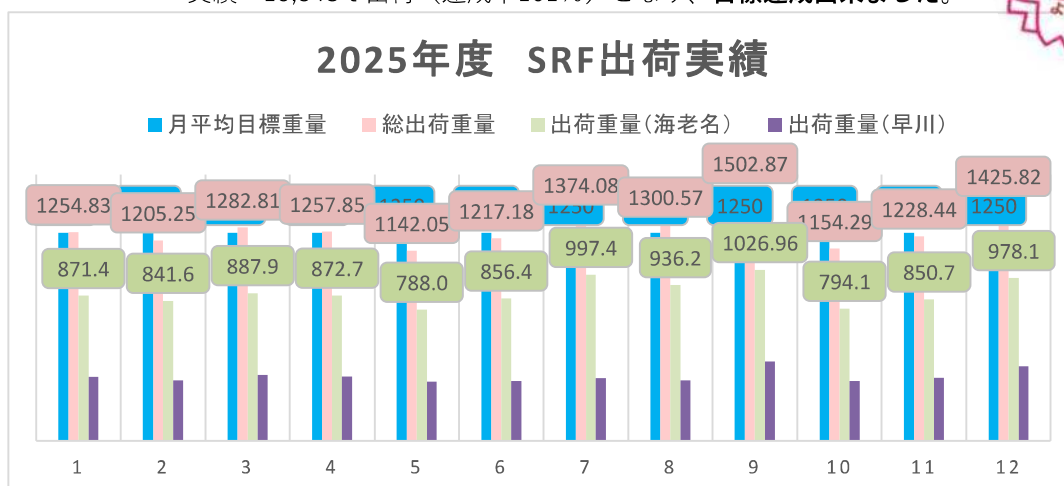
- 【具体的な改善例】
- ・ 吉岡工場から早川第二工場への運搬時のメモ用紙活用
 - ・ 仕分け場所の5S活動の徹底
 - ・ 合間時間を活用した積極的な仕分け業務の遂行 等

2) 2025年度までに製造出荷量を15,000 t にする。

2025年度目標：15,000 t SRFを出荷（2022年度を基準に15%アップ）

実績：15,348 t 出荷（達成率101%）となり、**目標達成出来ました。**

図 5



小集団活動（社内呼称 "S-Pro"）の取り組みをきっかけに、これまで主管部門である海老名工場と早川工場の「個人事」ととどまっていた業務意識が、全部門が連携して取り組む「全体事」へと大きく変化いたしました。
具体的には、製造工場における廃プラ原料の集荷増大や生産体制の改善に加え、他部門でも焼却物の燃料化やSRF原料運搬効率の向上などが進められました。

また、部門会議やマネージャー会議でも課題についての協議が頻繁に行われるようになりました。
その結果、「同じ会社でありながら他部署の業務がわからない」という状態が解消され、全社的な目標達成に繋がりました。

【推進部門】海老名・早川・吉岡



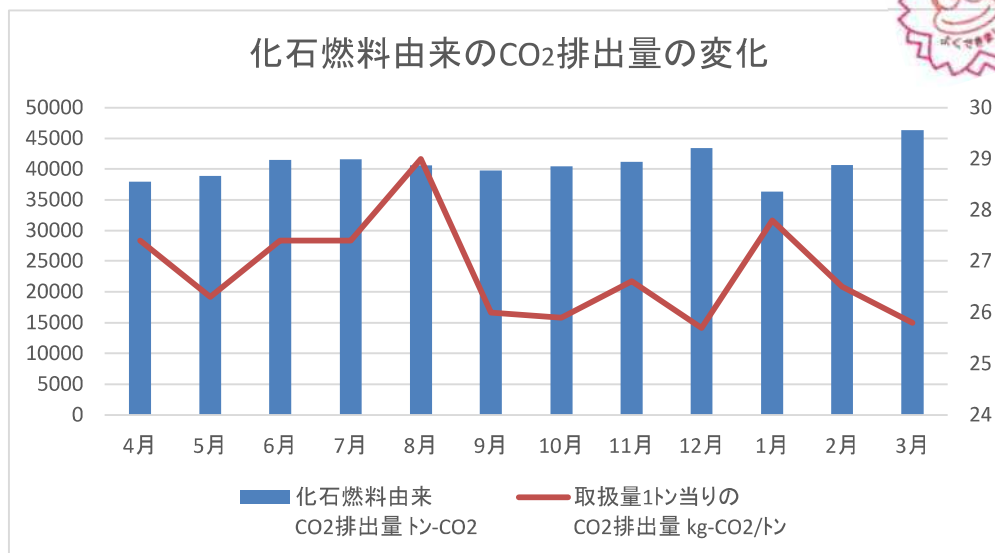
3.2 2025年度活動実績

3) Scope 1 2025年度までに化石燃料由来の地球温暖化ガスを原単位で3%削減する

2025年度目標：2022年度基準に3%削減 27.0kg-co2/t以下

実績：24.1kg-co2/tの結果となり、目標達成出来ました。

図 6



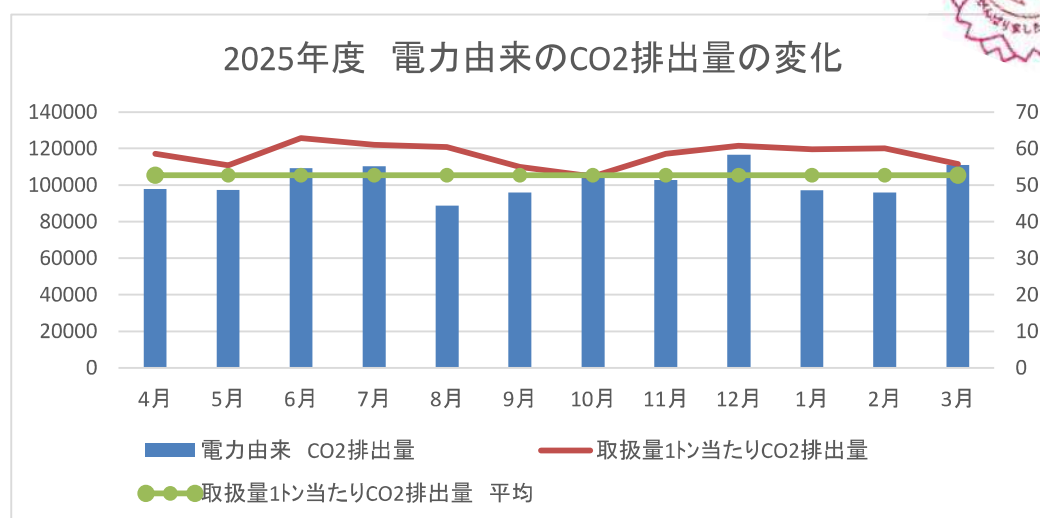
バッテリーフォークリフト（EV化）や電気自動車の導入を推進した結果、CO2削減効果が顕著に現れました。2025年度の実績データのうち、業務課のパッカー車の燃費効率の低下が見受けられたため、効率的な収集運搬の改善を今後の課題として見出しました。

4) Scope 2 2025年度までに購入電力由来の地球温暖化ガスを原単位で3%削減する

2025年度目標：2022年度基準に3%削減 52.7kg-co2/t以下

実績：58.4kg-co2/t となり、未達成でした。

図 7



電力使用量につきましては日々データ監視やレビューを行ってきましたが、原料の変化や設備影響により生産効率が低下したことが大きな要因として挙げられます。今後は生産効率の最適化やオペレーションの改善により、エネルギー原単位の低減を図ります。

3-2 2025年度活動実績

5) 実質 CO₂排出削減量の増大

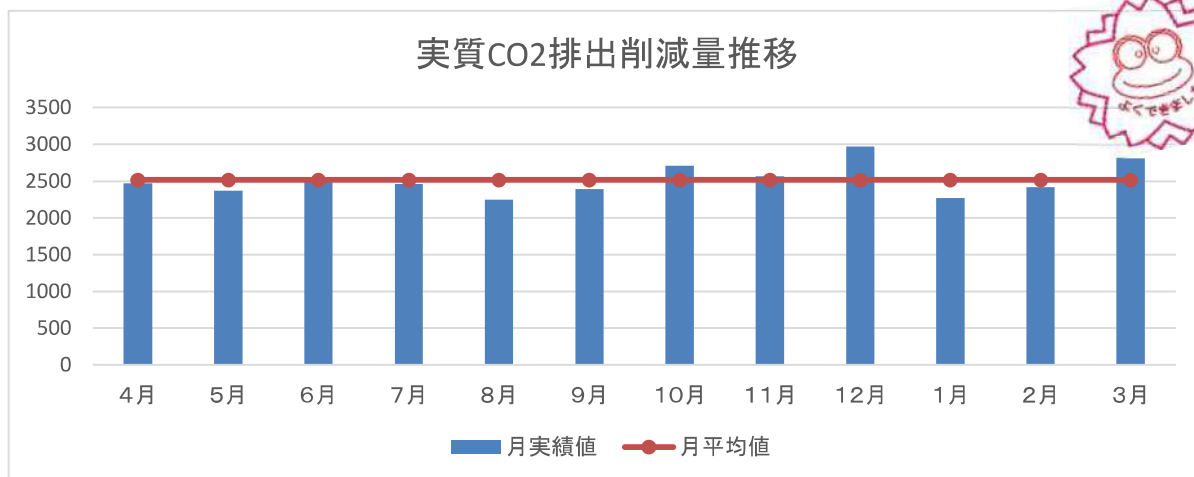
弊社ではサプライチェーン全体でGHG排出量を効果的に削減することを目標に取り組んでいます。廃棄物を資源原料にするマテリアルリサイクルは優先的に行いますが、原料化できない可燃性廃棄物から化石燃料使わないエネルギーリカバリー（燃料化）を行い、カーボンニュートラルに貢献する取り組みを行っています。

それがゆえに、この「実質CO₂排出削減量」の結果が活動評価の最終的な成果といえます。

2025年度目標：28,168 t -CO₂（月平均2,347 t -CO₂）

実績：30,232 t -CO₂（月平均2,591 t -CO₂）目標達成出来ました！！

図 8



今期、製造したRPFを重油に換算した量は10,727 k ℓ になり、排出抑制出来たCO₂は31,967トン-CO₂となります。自社活動で発生したスコープ1,2のCO₂排出量は1735 t -CO₂ t で差し引くと30,232t-CO₂ t となりました。

【推進部門】 全部門

代替燃料化による化石燃料の削減効果

自社生産したRPFおよびSRFの出荷により、重油換算で月平均894㏩（大型タンクローリー約45台分）の化石燃料削減に寄与しました。これによる実質的なCO₂削減効果は極めて高く、排出量削減目標の達成に大きく貢献しました。

サプライチェーンでみる環境負荷の比較イメージ

【化石燃料】は海外に調達を依存し、輸送・精製という重層的な工程を経るため、環境に多大な負荷を与えながら供給されている。

図 9



【SRF】は化石燃料サプライチェーンと比較すると環境負荷を抑えられ、温室効果ガスの排出抑制に直結



3.3 小集団活動（Bottom Up型）を取り入れた改善活動実績

小集団活動名 : SRF推進プロジェクト（通称 "S-Pro"）
テーマ : 2025年度 RPF15,000 t 出荷
メンバー : 7名（全部門より1名参加）
打ち合わせ回数 : 不定期開催 ※2025年度（42期）より

～ 小集団活動のテーマ ～

- ① SRF 15,000 t 出荷の目標は、工場だけのテーマではないことを認識する。
*** 問題意識を共有する！**
- ② 全部門でテーマ達成に向けた課題を共通認識し、解決に向け取り組みました。
*** 3現主義で確かめる！ なぜ・なぜの繰り返し！**
- ③ 目標達成することで、皆で成果を分かち合えました。
*** 2025年度：15,000 t 出荷達成を目指します！**

📖 当期コメント

👉 日々の連絡や部門会議の協議事項が発生した際に小集団活動を開催しました。
また、毎月達成状況を社内メールで情報共有し、モチベーション向上やタイムリーな計画修正などを実現できました。

👉 "S-Pro"では設備導入やプラント改善の協議も行いました。
結果として、大規模な設備導入やプラント改善はありませんでしたが、タズミの
これからの未来を担う若手にとって貴重な学びの場となりました。

4. 「プラターンの森計画」実績報告 タズミが推進する再生固形燃料（RPF）化について

※「プラターン」は、タズミ製固形燃料の商品名です

図 10



【焼却ごみのうち1トンをプラターン(再生固形燃料)に加工すると】
その熱量は重油700ℓ分に相当します。上図の減った煙1つは、重油700ℓの燃焼で発生する約2トンのCO₂です。一方、1年間に2トンのCO₂を吸収固定する杉林の面積は約2,100m²で、その杉の本数は約200本になります。

つまり、焼却ごみから1トンのプラターンを製造・利用することは、2,100m²の杉林（200本の杉の木）を1年間保全したのと同じ効果がある事になります。この仮想の森を維持拡大することが「プラターンの森計画」であり、当社の燃料化事業の環境効果です。

2025年度の《プラターンの森》は

- ★プラターンの出荷実績：15,346 トン（重油換算 10,727 kℓ）^⑩
- ★排出抑制されたCO₂二酸化炭素は、30,224トン-CO₂
- ★プラターンの森の広さは、32.2km²、杉の本数では約644万本でした

⑩ プラターンの森では、プラターン出荷(販売)実績数量で計算していますが、環境活動では生産数量を使用しているため、森の面積やCO₂排出抑制量等で、表現数値に違いが出ます。

5. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

2026年5月1日 確認

1) 環境関連法規のチェック

環境関連法規の遵守状況については法令の要求事項をすべて満たしており、適合性は良好です。

表 1 2

法令等名称	適用項目	主な要求内容	前回確認からの変更点	評価
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	処分業 中間現地確認	5年毎の許可更新 (優良は7年)	吉岡RC、ディスク切断機、保管場所変更届、海老名工場湿式集塵機変更届に伴う完了後の現地確認も含む。指摘事項なし	
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	令第六条の二第四号が「その他環境省令で定める事項」	委託契約に含まれない事項を定める則則八条の四の二が改正	弊社契約書ひな型の改定を行った。随時契約更新時並びに排出事業者の要望に応じた対応を行った	

2) その他の環境法令チェック

その他の環境法令についても問題はありませんでした。

3) 環境法令以外の法令チェック

☞労働安全衛生規則の一部改正

化学物質管理者並びに保護具着用管理者を各事業所に配置完了いたしました。

☞道路法

特殊車両通行許可申請の更新を行いました。

4) 環境関連法規等の違反、訴訟等の有無

法令違反・訴訟等はありませんでした。

5) その他、事業活動に伴う環境クレーム及び周辺住民からの情報提供

1件クレームが発生してしまいました。内容は「相模川付近の道路でトラック（6545）からアルミ缶を落として走っていた」との通報がありました。直ぐに運転手に連絡し会社からも空き缶を回収に向かいました（数個回収）。

原因：空き缶を入れていたフレコン袋の上部がしっかりと締めてなく風で飛散した。

対策：シート掛けの徹底を義務付けました。

6) 是正処置

3件ありました。詳細を以下に記します。

2025/4/1 海老名工場労災事故発生に伴う是正処置

発生：生産終了時行う清掃点検中に作業員が成形機排出口に右手親指付け根を損傷する

原因：成型機が完全に停止する寸前で原料を除去するために手を機械の中に入れてしまった。禁止行為

対策：電子キー付きカバーに変更し、機械停止してから時間経過後カバーを解放し手掻き棒で除去する手順にする

2025/10/22 日本製紙株富士吉永工場RPF納品品に金属ローラー混入事故発生に伴う是正処置

発生：日本製紙から金属混入の連絡があり、積込装置を総点検しリターンローラーが欠如していた

原因：2週前のローラー交換の際に寸法が10mm短いものを交換していた。発注した部品が寸法が違っていた

対策：正規寸法のものに交換する。部品発注、交換時の際の寸法確認と積込後の部品欠如の点検をする

2026/2/27 海老名工場破碎機リチウムイオン電池混入に伴う火災事故に伴う是正処置

発生：早朝6時半に破碎機炎検知発報初期消火行動を行うが破碎室内の火が消えず消防署に連絡する

原因：通常であれば消火は可能であったが破碎室の消火水量が少ないこと、消火器で見えなくなってしまう

対策：1階と2階に消火栓と消火ポンプを追加して水量の確保と炎検知制御を変更し訓練を行う

消火ポンプ導入は全社的な水平展開となり、各部署に導入されました。

6. 環境測定結果



- 騒音・振動測定：吉岡リサイクルセンター・早川RPF工場・早川第二工場・プラターン海老名工場 1回/年 実施
- 臭気測定：早川RPF工場・プラターン海老名工場 1回/年 実施

2025年度 環境測定記録・結果 全事業所、規制値を合格しています。



表 1 3 測定結果詳細

吉岡リサイクルセンター 騒音・振動		破碎施設		高速切断施設		油圧切断施設	
		前期	今期	前期	今期	前期	今期
2025/5/28 実施	騒音規制値	55 d B 以下	47	54	50	47	48
	振動規制値	65 d B 以下	30	30	48	43	45

早川RPF工場 騒音・振動		成形施設		破碎施設A		破碎施設B	
		前期	今期	前期	今期	前期	今期
2025/5/19 実施	騒音規制値	75 d B 以下	67	70	68	66	63
	振動規制値	70 d B 以下	70	68	69	65	62

早川RPF工場 臭気		脱臭排気施設		溜水式集塵施設	
		前期	今期	前期	今期
2025/5/26 実施	臭気規制値	35 以下	22	27	15
					19

早川RPF工場 臭気（敷地境界）		敷地境界	
		前期	今期
2025/5/26 実施	敷地境界規制値	15 以下	10未満
			10未満

プラターン海老名工場 騒音・振動		選別施設		破碎施設		成形施設	
		前期	今期	前期	今期	前期	今期
2025/5/23 実施	騒音規制値	75 d B 以下	60	59	69	70	65
	振動規制値	70 d B 以下	68	44	68	62	63

プラターン海老名工場 臭気		排出口①		排出口②		排出口③		排出口④	
		前期	今期	前期	今期	前期	今期	前期	今期
2025/5/26 実施	臭気規制値	30 以下	12未満	25	16	24	12未満	14	12未満
									30

プラターン海老名工場 臭気（敷地境界）		敷地境界	
		前期	今期
2025/5/26 実施	敷地境界規制値	15 以下	10未満
			10未満

測定様子



当期コメント

2025年度、プラターン海老名工場において湿式集塵機（1～4号機）の更新を完了いたしました。
 老朽化対策として材質をステンレス製へと変更したほか、清掃の作業性を高めるための構造改善も実施しました。
 今回のプロジェクトは、機械の改善検討から入れ替え工事に至るまで、次世代を担う若手メンバーが主体となって取り組みました。技術継承と経験を積むための、貴重な実践の場となりました。



7. 2025年度の取組結果とその評価、及び前回代表者による見直しと取組み結果

環境活動計画の取組結果とその評価については表14・15に記します。

達成度
○：取り組み、目標達成
△：取り組んだが目標未達成
×：取り組めなかった

表 1 4

項目	達成度	プロセス評価
2022年度より、全社再資源化量を15%アップ；年間2401t	○	目標達成：資源化量は2,410tと達成することが出来ました。積極的に営業活動しスポット案件での工場、寮の片づけ等寄与した。電子機器等を含む廃棄物も安定的に増加した。
2025年度SRF（再生固体燃料）を15000t製造出荷する	○	目標達成：SRF出荷量が15,346tと達成することが出来ました。地元自治体の剪定枝、木製家具、その他プラ等の増加は自治体焼却量の削減につながった。又、家屋解体発生量の処理も増加し3月1万枚を超えた。焼却処理からの燃料化も同業者を通して増加傾向になった。
Scope1 地球温暖化ガスを原単位（取扱量1t当たり）で27.2kg-CO ₂ /t以下	○	目標達成：処理業務での重機、フォークリフトの効率作業をっていた点とEV化やエンジンを小さい機種への稼働を増やした点が貢献できた。車両関係は積載量の低下で燃費は悪化していない。
Scope2 地球温暖化ガスを原単位（取扱量1t当たり）52.7 kg-CO ₂ /t以下	△	目標未達：58.4 kg-CO ₂ R P F 製造工場での電気使用量の増加と生産効率の影響が大きく影響した。早川工場では若干効率は上がったが破碎機回転の欠落当設備メンテナンスの遅れの影響があった。海老名工場でも成型機のノズル交換等対策の遅れが影響した。
RPFを使用することで削減できた化石由来の地球温暖化ガスの削減量	○	年間27,307 Co ₂ -tとなり、大きな成果に繋がっている。自社活動で発生した分を差し引いた量は25,805 Co ₂ -tで事業活動で発生するCo ₂ の1.7倍の削減効果がある。
グリーン購入の推進60%維持	△	グリーン購入率57% 事務用品等リスト対象品を確実に購入するように指示した。環境性能の良いEV化や省エネ化も積極的に購入している。

表 1 5

前回代表者による見直しと取組み結果

a)	2025年は創業60周年となりました。再資源化への取組みは創業から取組んできた基幹事業です。そして本年4月からソニー厚木TECのリサイクル事業を受託しました。現状弊社で受入れが出来ていない資源化可能な廃棄物に対しても、機械設備等の導入も含めて検討し取り組んで下さい。	○創業60周年に際し改めて再資源化の取り組みに飛躍させるための機械設備導入の調査を行った。特に電子機器等の非鉄金属の再資源化を一段階向上した処理の移行が出来ないか早川第2工場を主体に調査を行った。調査の結果、作業環境の課題、高付加価値加工について検討する必要があることが確認できた。 ○微粉砕機についても検討はしたが作業環境の安全性の観点から導入には至らなかった。今後は精錬メーカーと協議できるか、処分しないのか、排出事業者と協議しながら実施していく。 ○中期計画の最終年度において目標であった2022年度基準値より15%増加は達成した。営業的にも新規案件で社会的問題になっているモバイルバッテリーの回収が決まり、今後その他資源物も広がりが期待できる。
b)	RPF燃料化リサイクルも、本年の1月に「再資源化事業の高度化に関する法律」で、化石燃料を代替する燃料化についても「再資源化」に該当するものとし、「製品」には燃料が含まれるものとする。と明記されました。また、事業系の一般廃棄物に混入する廃プラ類の搬入検査も厳しくなっています。この変化と課題をチャンスと捉えて、積極的にRPF燃料化事業に取り組んで下さい。	○再資源化高度化法においてRPFが製品として認定されていることのアピールについて戦略的に提案できたとは言い難い状況ではあった。事業系一般の伸びについても大きな取り込みには至っていない。 ○一方でRPF出荷量は昨年に比べ年間1300t増加することが出来た。量約600t、自治体剪定枝・木製家具約600t、廃プラ約600t。来期以降の廃プラ集荷の戦略が必要である。
c)	Scope1：運搬車両も順次交換の時期が来ています。Co ₂ 排出量の検証も十分に行い導入して下さい。 Scope2：電力由来のCo ₂ 排出削減量は、生産量に比例して増加してしまいます。実質Co ₂ 排出削減量の把握記録も併せて管理して下さい。	○化石燃料由来のCo ₂ 排出量は前年比総量でも原単位においても削減できた吉岡RCでは作業や運搬方法の効率化に取り組んだ。その他早川・海老名のフォークリフトを全社EV化したため全体使用量の削減に繋がった。 ○電気由来は早川工場で使用量・原単位について改善が見られた。海老名工場は生産量増加で用量が増加しました。生産効率も機械設備の老朽化や水分の多い原料への調合対処など苦戦を強いられてため結果的には厳しい状況となった。しかし、今年に入り生産効率改善に取り組んだ結果3月には目標としていた効率に近づけることが出来た。 ○総じてRPF出荷量が15,367tとなり重油熱量換算で10,727kℓの使用量を削減でき、製造時のCo ₂ 排出量を差し引いても30,222 Co ₂ -tの削減に繋がった。



8. 代表者による全体評価と見直しの結果

1) 全体評価

今回の評価結果及び指示内容等

① 評価の結果

- A) 3ヶ年計画の「2022年度より全社再資源化量を15%アップする目標：2,401ト/年」は、結果：2,410ト/年で達成しました。創業時よりの再資源化事業は、地球上にある有限資源物が製品化利用により拡散混合され、再度集積し純度を高めて再資源化されます。これからも継続的に取り組むべき重要な事業です。目標の達成、誠にご苦勞様でした。
- B) 3ヶ年計画の「2025年度までにSRF（再生固体燃料）を15,000ト/年 製造出荷する」目標は、結果：15,346ト/年で達成しました。これは石油使用量が10,727kℓ削減できた事になります。そしてCo2二酸化炭素の排出量を31,967ト削減出来ました。目標の達成、誠にご苦勞様でした。
- C) Scope1：2025年度までに化石燃料由来の地球温暖化ガスを原単位で3%削減！Scope2：2025年度までに購入電力由来の地球温暖化ガスを原単位で3%削減！に取り組み、Scope1は達成、Scope2は未達でした。しかし燃料化事業の効果でCO2排出量削減効果は31,967ト。全事業によるCO2排出量を差し引いても30,232 CO2-トの削減効果がありました。目標への取り組み、誠にご苦勞様でした。

② 指示内容

- a) 再資源化事業は、商品として拡散された資源物を回収して、不純物を除去して純度を高め付加価値を上げる事業です。回収方法や効率を改善し、選別方法や解体方法の改善で、今よりも高く売却出来て仕入れる事が出来ます。また今より安い処理費用で受託する事が出来ます。既存の概念や先入観にとらわれずに、機械化の検討並びに作業方法や業務システムの構築・改善に取り組んで下さい。
- b) 現在、海老名工場では成型機を2基併設ですが、破碎機や天井クレーンは直列配置になっていて、どこかの機械が停止した場合には工場全体が停止するリスクがあります。想定外のトラブルや故障が起きても早期復旧が出来る準備と対策が必要となります。そして工場の増設等の根本的な対策が必要です。また、畳や剪定枝等の搬入量は増加していますが、成形工程のバインダー効果と熱量カロリーを上げる為に廃プラスチック類の搬入量を増加させる必要があります。全社を挙げて対策対応をして下さい。
- c) Scope1：数値目標だけで取り組むと、遠くで軽いものより近くで重いものを収集運搬した方が良くなります。実質的な効果を上げる為には、車種別・収集方法別・出荷車種別などの分類ごとに管理集計することも検討して下さい。

Scope2：RPF生産量や廃棄物処理量の原単位の電力使用量を低減させる事が目標です。機械設備の良好状況の維持や製造生産技能向上とノウハウの共有なども必要と思います。そして良い状況状態を把握理解をして、悪くなりかかった時、悪くなった時の早期確認と早期対応に取り組んで下さい。

また、SRFを出荷使用して頂いた事で削減できたCo2排出量の削減量の管理把握と情報発信にも、引き続き取り組んで

③ 見直し結果

① 環境経営方針の変更の必要性

(有り ☒ 無し) 改善担当者：代表取締役 田墨幸一郎 期限：なし

② 環境目標の変更の必要性

(有り ☒ 無し) 改善担当者：環境管理責任者 田墨啓治 期限：なし

③ 環境活動計画及び環境経営システム等の変更の必要性の変更の必要性

(☒ 有り ☐ 無し) 改善担当者：環境管理責任者 田墨啓治 期限：令和8年5月末

9. 中期環境経営活動目標

9.1 中期環境経営活動目標（新3ヵ年）

全社的な再資源化の高度化を推進し、資源循環型社会の構築を牽引します。
SRFによる化石燃料代替に加え、非鉄金属の回収やマテリアルリサイクルなど、各部署が専門性を活かして廃棄物の価値を最大化させ、サプライチェーン全体で再資源化率の向上とカーボンニュートラルを実現します。
活動目標については表16に示す。

表16

★新3ヵ年計画

項目				2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
				基準値	目標	目標	目標
☆	全社受託廃棄物再資源化率を毎年1%ずつ向上させる	再資源化率	%	88.5	89.5	90.5	91.5
1	2028年度までに、全社資源化量を10%アップする <基準年：2025年度>	全社 資源化量 (年間合計量)	t	4,377/年	3%アップ 4,508/年	6%アップ 4,639/年	10%アップ 4,814/年
		全社 資源化量 (月平均値)	t	365/月	383/月	401/月	419/月
2	2028年度までにRPF（再生固体燃料）を17,000トン/年 製造出荷する	プラターン出荷量 ※出荷使用されてCO ₂ 削減効果 が上がる	t	15,346	16,000	16,500	17,000
		プラターン出荷量 (月平均値)	t	1,279/月	1,333/月	1,375/月	1,417/月
3	Scope1 2028年度までに化石燃料由来の地球温暖化ガスを原単位で3%削減するように取り組む	化石燃料由来 CO ₂ 排出量	t-CO ₂	556.000	583.800	611.600	639.400
		取扱量1トン当りの CO ₂ 排出量	kg-CO ₂ /t	24.4	(1%削減) 24.2以下	(2%削減) 23.9以下	(3%削減) 23.6以下
4	Scope2 2028年度までに購入電力由来の地球温暖化ガスを原単位で3%削減するように取り組む	電力由来 CO ₂ 排出量	t-CO ₂	1,231.000	1,283.461	1,354.100	1,363.678
		取扱量1トン当りの CO ₂ 排出量	kg-CO ₂ /t	58.4	(1%削減) 57.8以下	(2%削減) 57.2以下	(3%削減) 56.7以下

またタズミでは上記活動を通じて、社会的な営業貢献を行っております。

環境負荷低減効果については表17で示す。

表17

5	RPF使用により削減出来た燃料重油量	燃料重油 削減量	Kℓ	10,727	11,200	11,550	11,900
6	燃料重油削減により排出抑制出来たCO ₂ 排出削減量	CO ₂ 排出削減量	t-CO ₂	31,967	33,376	34,419	35,462
7	実質 CO ₂ 排出削減量の増大 6項のCO ₂ 排出削減量から、3項4項の事業由来のCO ₂ 排出量を引いた量	実質 CO ₂ 排出削減量	t-CO ₂	30,180	31,509	32,453	33,459

以下の4項目は、数値目標の設定をおこなわない。ただし、環境影響度の高い重要項目として

数値監視し、必要に応じ対策を実施する。表18に示す。

表18

監視4項目		監視内容	2026年度～2028年度
1	自社廃棄物の管理	自社廃棄物の分別を徹底して、焼却向け排出量が増加しないようにする	2025年度の数値：5.7kg/月平均を超えないように監視する
2	グリーン購入（環境負荷の少ない）を推進する	事務用品は、購入ルールを順守し、購入サイトwebページ上からの購入励行する	事務用品の購入金額を月次で計上し、グリーン購入比率60%以上を維持する
3	上水使用量を監視する	上水使用量を監視し、適切な機能を維持し無駄な使用が無いように管理する	各部署で水の使用料を計上・監視して、数値のプレがあれば、原因追及して対処する
4	化学物質排出量を把握する	自社の事業において、化学物質は使用していない	購入塗料等に含まれるVOCの量を把握する



9. 中期環境経営活動目標

9.2 2026年度環境活動目標・計画

以下に、活動項目を明示する。各部門は、部門ごとの「部門計画 実績表」に目標を設定し、月次で推移の確認を行い、達成度を評価する（2026年4月～2027年3月の期間）。詳細を 表19 に示す。

表19 環境活動計画取組表

『★』各活動項目に対する主管部門

	活動項目	管理及び実施項目	推進部門
☆	2028年度まで再資源化率3%向上	全社で実施項目を行う	全社
1	2026年度、全社再資源化量を4,508t/年出荷する。 (前年度比3%アップする)	・出荷先ごとの採算性を理解した先輩従業員がトレーナーとなり再資源化物の知識や仕分け技能向上のOJTへの取り組み実施 (★) ・配車担当者を中心に各ドライバーと収集出荷ルート of 効率化や最適化に取り組む (★) ・大型ドライバー教育等の教育訓練により、出荷運搬効率の向上 (★) ・大型片付け案件等において再資源化率を向上させるため、営業担当と現場担当者での情報共有を高める	業務課 (★) 早川第2 (★) 吉岡 (★) 営業 早川・海老名
2	2026年度、RPF（再生固体燃料）を16,000トン/年 製造出荷する	・SRF製造部門営業力向上のため、後進営業の積極的教育の実施 (★) ☞発熱量低下対応の廃プラ集荷の強化 ☞RPF利用先の安定的な需給の確立 ☞事業系一般排出者に対する対応 ☞顧客の要望を適える営業力強化 ・品質管理向上維持のため統括JIS品質管理者の両工場マネジメント強化 (★) ☞人員体制の改善 ☞焼却向け廃棄物からの燃料化 ・早川工場生産量増加施策として、朝番シフト安定化を目指す教育訓練の実施 (★早川)	早川・海老名 (★) 吉岡 (★) 営業 業務課 早川第2
3	Scope1 化石燃料由来の地球温暖化ガスを2025年度より原単位（取扱量1トン当り）で1%削減する 目標値：24.2 kg-CO ₂ /トン以下	・効率的な回収方法の検証 (★) ・車両毎の燃費の監視とレビュー (★) ・車両点検の徹底、車両状況の確認監視 ・重機やフォークリフト作業の効率改善 ・バッテリーフォークリフトの導入推進	業務課 (★) 営業 吉岡 早川第2 早川・海老名
4	Scope2 電力由来の地球温暖化ガスを2025年度より原単位（取扱量1トン当り）で1%削減する 目標値：57.8 kg-CO ₂ /トン以下	・RPF製造時の電力使用量（デマンド）の監視 (★) ☞生産効率の監視レビュー ☞部門会議によるアクションプランの策定修正 ・機械設備管理（消耗品交換等）の徹底 (★) ・過負荷停止の削減 (★) ・電気使用パトロール（消灯・機械停止等） ・健康を留意した空調機器の温度設定	早川・海老名 (★) 吉岡 早川第2 総務 管理
7	実質 CO ₂ 排出削減量の増大 RPF事業によるCO ₂ 排出削減量から、事業由来のCO ₂ 排出量を引いた削減量	・2項のRPFの出荷量を増加して、サプライチェーンでのCO₂排出量の削減 ・3項の化石由来の原単位当りのCO₂排出量の削減 ・4項の電力由来の原単位当りのCO₂排出量の削減	全部門

監視項目とする。

1	自社廃棄物の管理	自社廃棄物の分別を徹底して、5.7kg/月平均を超えないように監視する	全部署
2	グリーン購入（環境負荷の少ない）を推進する	事務用品は、月次で購入金額を計上して、グリーン購入比率60%以上を維持する	全部署
3	上水使用量を監視する	上水使用量は、適切な機能を維持し無駄な使用が無いように監視し、異常があれば対処する	全部署
4	化学物質排出量を把握する	自社の事業において化学物質は使用していないが、購入塗料等に含まれるVOCの量を把握する	全部署

10. 各部門 活動実績資料

10.1 教育訓練①

●熱中症対策の改正に伴い夏場に向けての教育を行いました。（全部署 2025年5月～）

労働安全衛生規則の改訂により、2025年6月から熱中症の恐れがある作業をする場合、具体的な熱中症対策を行うことが義務付けられたので部門内で教育を行いました。



社内判断と対応フロー図を作成し、各部署で説明しました。

予防対策として社内支給のOS-1補給や涼しい部屋での休憩、

2025年5月	熱中症ゼロ目標に向けて	氏名: [REDACTED]
下記項目に記入してください。		
★ 自分の担当エリア・作業で気を付ける事 選別ライン中は、他スタッフの休憩タイムを、徹底して守る。 休憩を、基本 1時間ずつ取る。 冷却設備の状態を監視する。		
★ 夏季中、体調管理（自己管理）で気を付ける事。（守っていく内容） 食事、睡眠をしっかりとる。 OS-1		

2025年5月	熱中症ゼロ目標に向けて	氏名: [REDACTED]
下記項目に記入してください。		
★ 自分の担当エリア・作業で気を付ける事 成形側では換気をし、熱気に触れない様にする。 溶接作業、現場作業では、常に水分補給をする。 火気作業以外では空調服を着る。		
★ 夏季中、体調管理（自己管理）で気を付ける事。（守っていく内容） 食事のバランスを考え、水分も適度に取る。 睡眠を快適にして、体調を整える。		

タズミの社内研修後には各自受講コメントを書き、理解度や意欲姿勢に応じてケアやフォローアップを行います。

●廃掃法社内勉強会の実施（業務課&吉岡リサイクルセンター 2025年8月）

元神奈川県環境部長の渡邊一法氏に講師をお願いして廃棄物処理法の中で収集運搬に係る基礎知識を修得し、間違えない運用のための注意点を講義いただきました。



講習会では運搬ドライバーや構内作業員視点で丁寧に分かり易く廃掃法の要点を解説していただきました。

講習後コメントでは、よく発生するマニフェストミスや回収時の注意事項、車両事故や労災事例などについて理解が深まったと多くありました。

今後も定期的に社内勉強会を実施してまいります。

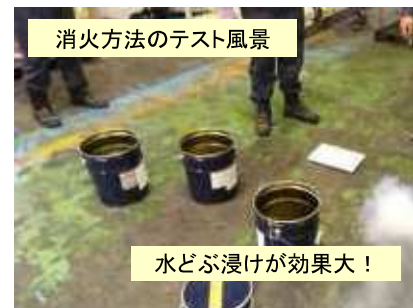
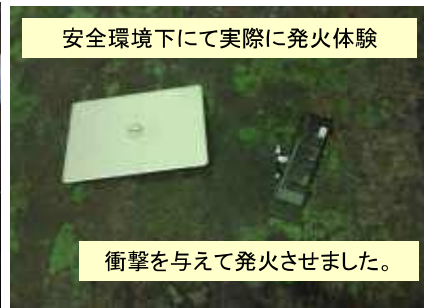


10. 各部門 活動実績資料

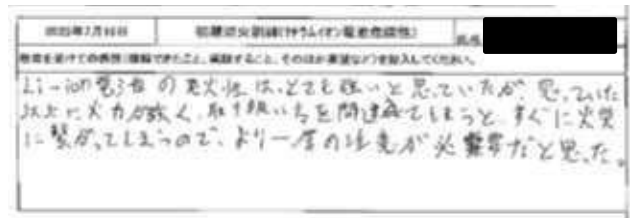
10.1 教育訓練②

●リチウムイオン電池の危険性の確認・学習（早川第二工場 2025年7月）

近年、リチウムイオン電池が原因となる火災が社会的な問題となっています。各部署勉強会や初期消火訓練を実施していますが、ここでは早川第二工場の社内講習を紹介します。



社内講習では座学勉強の実施、その後に実地訓練をおこないました。
リチウムイオン電池が発火する際は少しの衝撃で火花が激しく噴射して発火していました。
消火検証の結果、粉末消火器や毛布を用いた窒息消火では十分な抑制効果が得られないことが確認されました。
リチウムイオン電池特有の熱暴走を食い止めるには、ペール缶に溜めた水への「浸漬（どぶ浸け）」による冷却が最も有効であったため、これを標準的な消火手順として社内周知しました。



10.2 緊急時の訓練①

●破砕機作業中の出火を想定した初期消火訓練（吉岡本社 2025年8月）

破砕機での原料を破砕作業中にリチウムイオン電池が爆発し、他の保管場所に火が落ちた事を想定し、初期消火行動と、延焼をさせないように火元を切り離す作業訓練を行いました。



破砕機から出火を想定



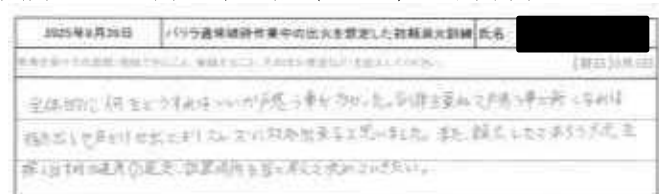
火元は重機でつかみ、
延焼しないように隔離



消火方法は消火器の以外に、
移動式タンクの水も使用！

メンバーの入れ替わりにより、初参加者を含む体制での訓練となりましたが、全体としては迅速かつ適切な行動が確認できました。一方で、無線機による情報伝達の正確性や、重機（ユンボ）の旋回半径内への立ち入りといった安全管理上の課題として認識できました。

特に、緊急時の心理的負荷（焦り）により周囲の状況判断が疎かになるリスクを再認識したことは大きな収穫です。



来期も定期訓練を通じ、「緊急対応マニュアルを理解した迅速な初動」を徹底します。
有事でも無意識に適切な安全行動が取れるレベルまでチームの対応力を引き上げ、万全の体制を築いて参ります。

10. 各部門 活動実績資料

10.2 緊急時の訓練②

●2名体制時の初期消火訓練（早川工場 2025年4月～）

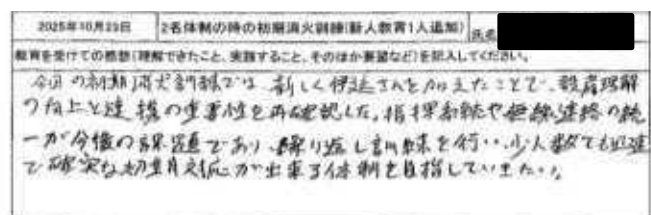
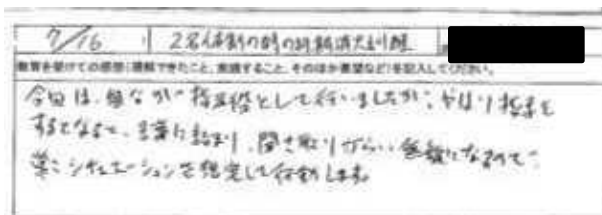
早川工場は他拠点と比較して少人数で運営されており、時間帯によっては最少人数の2名体制となるため、「個々の初期消火能力」が工場全体の安全を左右します。
全メンバーが同じレベルで高度な「判断力」と「行動力」を発揮できる体制作りのために早川工場では月に一度の初期消火訓練を実施しています。
訓練では、2022年導入の初期消火システムを用い、最少人数である2名体制時でも確実な消火行動が取れるよう、実践的なシミュレーションを繰り返しています。



自動消火設備を使用した訓練の様子



自動消火設備を使用しない場合の
消火についても訓練しています



●綾瀬消防の方を呼び、初期消火方法と火災発見時の通報の仕方について学びました。

（収集運搬業務課 2025年10月）

収集業務において最もリスクが高い「パッカー車荷役内部での火災」を想定し、綾瀬消防署協力のもと、全メンバーで初期消火訓練を行いました。
実際の事故現場を想定し、水消火器の使用手順や窒息消火のプロセスを一人ひとりが体験学習。
さらに、消防署の方からは「パッカー車特有の構造を踏まえた通報のポイント」や、二次被害を防ぐための状況判断についてアドバイスをいただきました。
「万が一」が起きた際、焦らず、しかし迅速に動くための実践的な知見を深める貴重な機会となりました。



窒息消火は怪我の事例があるため、無理せず消火器を使用することを教わりました。



水消火器を使用しての訓練
参加者全員が体験し、
消火方法を学びました。



パッカー車から火災が発生したことを想定し、電話する際の注意点などを学びました。

10. 各部門 活動実績資料

10.3 各部門 改善活動

●工場内 ピット誘導ライン 再塗装 （早川RPF工場 2025年8月）

早川工場はブラックアウト効果で構内が見えづらいため、受入土間の左右に明るいLEDライトを設置し視認性を向上させました。また色分けすることでドライバーへの誘導指示ミスが激減しました。



●高速カッター リセットボタン増設 業務改善 （吉岡リサイクルセンター 2025年5月）

高速カッターの過負荷停止時に制御盤内にあるリセットボタンを押すために作業が大幅に停止してしまう状況改善のために機械側面にリセットボタンを増設し安全性と効率を改善しました。



●安全パトロール 業務改善 （早川第二工場 2025年6月）

自社でコンクリートで埋め、フォーク走行時等つまづくことがないように改善を行いました。敷地外（綾瀬市）の土地の為、市役所に問い合わせし、改善を行ってもらいました。



11 その他 活動実績資料

11.1 外部団体との取組み

あやせ工場 オープンファクトリーへの参加（2025年11月）

昨年度に引き続き、11月8日（土）に綾瀬市内の工業団地でものづくり・見学を行う「あやせ工場オープンファクトリー」への参加を行いました。（早川RPF工場）

会場の様子①



会場の様子②



今回のイベントでは、タズミの事業内容をベースにした「謎解き企画」を実施しました。謎解きやフォークリフトの乗車体験を通じて、お子さまとご家族にタズミの仕事を楽しく学んでいただける場を提供。この謎解きの内容や配布資料の作成は、すべて従業員が手作りでつくり上げたものです。遊びを通じて、次世代を担う子供たちにRPF（固形燃料）製造の役割や環境活動の大切さを知ってもらう貴重な機会となりました。

ナゾ解きの様子



当日は100名近い親子連れで賑わい、謎解きや体験イベントを楽しみながら、タズミが取り組む資源リサイクルの活動を身近に感じていただきました。

11.2 廃棄物処理委託先の視察

タズミでは毎年、廃棄物の二次処理委託先への視察を行っています。本年度は、視察先の調整が上手くできず、委託先の確認が出来ませんでした。来期は計画して確認できるように計画するようにします。

11 その他 活動実績資料

11.3 環境保全寄付

㈱タズミは次世代に豊かな緑を引き継ぐため、20年間にわたり継続して寄付を実施してきました。
2025年の創業60周年を節目とし、通常的环境寄付とは別に、長年支えてくださった地域社会への感謝を込めた寄付を行いました。

長年にわたり弊社の仕事内容について深く理解し、温かく見守り続けて頂いた地域の皆様に深く感謝し、これからも皆様との絆を大切に、地域社会のさらなる発展に尽力してまいりますので、今後とも末永いお付き合いをよろしくお願い申し上げます。

◆SDG s 15.2：2030年までに、森林の持続可能な経営を実施し、森林の減少を阻止回復と植林を増やす



神奈川県 かながわトラストみどり基金



※左から 専務、社長、黒岩知事、常務

綾瀬市

橘川市長、社長、専務



海老名市

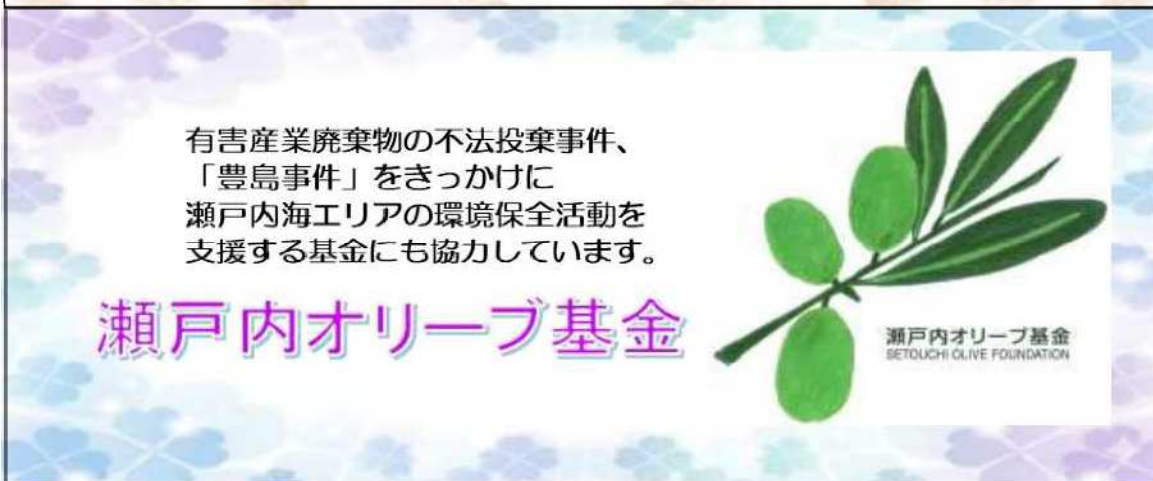
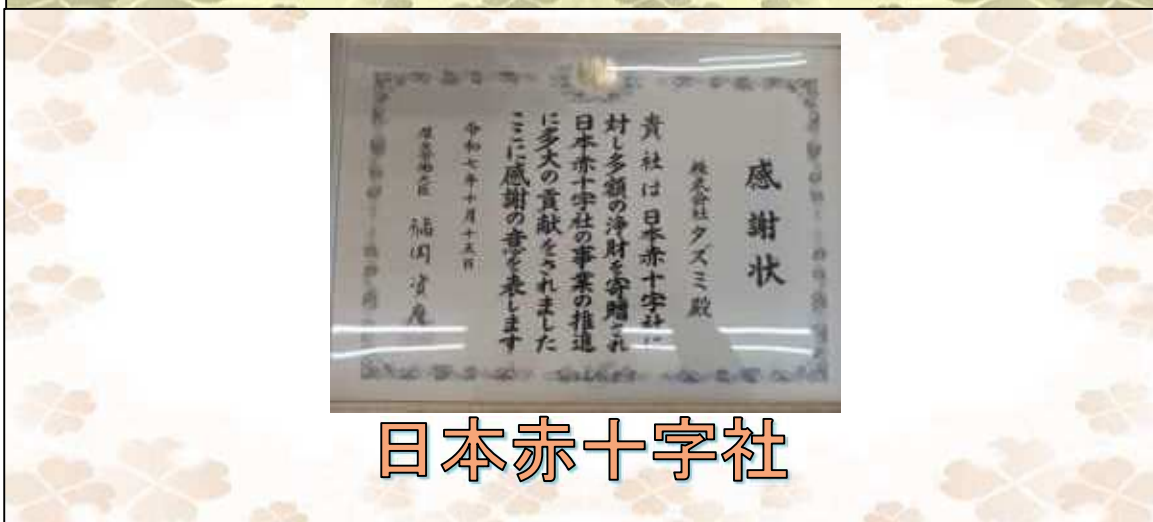
内野市長、社長、常務



11 その他 活動実績資料

11.3 環境保全寄付

創業60周年の感謝と地域への恩返しとして、例年の寄附先に加え他団体にも寄付を行いました



その他に、綾瀬市、海老名市、座間市の
社会福祉協議会、児童養護施設へも寄附を行いました。



株式会社 タズミ

本社・吉岡リサイクルセンター

〒252-1124 神奈川県綾瀬市吉岡709番地
早川第2工場

〒252-1123 神奈川県綾瀬市早川2647-32
早川RPF工場

〒252-1123 神奈川県綾瀬市早川2647-35
プラターン海老名工場・海老名第2工場

〒243-0434 神奈川県海老名市上郷4丁目2-8

TEL:0467-77-1847 FAX:77-1936

TEL:0467-53-8907 FAX:53-8908

TEL:0467-71-3792 FAX:71-3793

TEL:046-292-2251 FAX:292-2252